

第9回 化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウムについて

環境安全課

1. 開催日時

2006年11月12日(日): 一般向けプログラム

11月13日(月)・14日(火): 専門家向けプログラム

2. 会場

釧路市観光国際交流センター(大ホール2/5使用: 600名程度)

3. 概要

環境安全課において、ExtEND2005に基づき、化学物質の内分泌かく乱作用に関するリスクコミュニケーションの取組を進める中で、行政が実施している化学物質対策全般(環境中化学物質濃度の測定、化学物質のリスク評価、化学物質についての審査・規制等)にわたって、リスクコミュニケーションが不足しており、市民に化学物質問題に関する行政の取組が十分に伝わっていないことが明らかとなった。

また、環境保健部環境リスク評価室においては、小児等の環境保健に係る内外の最新の取組について情報交換するため、平成14年度より4回にわたり、「小児等の環境保健に関する国際シンポジウム」を開催してきている。環境保健部内での化学物質に関連した取組については、今後統合して包括的な情報提供を行うことが、効率的かつ有用であると考えられる。

上記のような状況をふまえ、今回の第9回釧路シンポジウムで「化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム」は一旦区切りとし、平成19年度からは、より幅広く化学物質問題全般を扱うシンポジウムへと転換を図ることとする。よって、第9回釧路シンポジウムにおいても、「化学物質のリスク管理のための取組」「化学物質に由来する健康リスクに着目した小児の環境保健」といった内容を含めることとする。

4. プログラム案

【一般向けプログラム】

11月12日午後

- ・開会式
- ・一般向けパネルディスカッション（別添資料参照）
- ・化学物質環境実態調査（通称：エコ調査）ガイドブックや化学物質に関する子供向けガイドブック等の配布、及び、化学物質審査規制法（化審法）や Japan Challenge Program 等についてのパネル展示を行い、化学物質問題全般についての普及啓発を図る。

【専門家向けプログラム】

5セッション

（各セッション3演者 発表30分+質疑10分 総合質疑・指定発言15分）

11月13日

- ・セッション1：作用・影響評価
- ・セッション2：基盤的研究
- ・セッション3：野生生物

11月14日

- ・セッション4：リスクコミュニケーション
- ・セッション5：化学物質に由来する健康リスクに着目した小児の環境保健

【レセプション】

11月13日 夜

【スタディビジット】

11月12日午後

釧路湿原

【関連行事】

第3回日米二国間協力実務者会議

11月15日（水）・16日（木） 研修室1,2,3

第9回化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム
一般向けプログラム パネルディスカッション(案)

環境安全課

1.ねらい

化学物質に関する環境省の取組とその成果について情報提供を行い、「化学物質のリスク評価」をどう進めているかに焦点をあて現状を伝え、情報共有を図る。

市民とともに今後の課題を見つけ、市民一人一人が化学物質の問題をどう捉え、どう対応していくかについて考える場とする。

タイトルは「化学物質の環境リスクにどう向きあっていくか？」等。

2.形式

市民とのコミュニケーション促進という実施目的を明確にするために、ステージ上に情報の受け手である一般市民を代表して疑問を投げかけるパネリストを配置し、専門家や担当者がこの質問側パネリストからの疑問に対して答えるという形式で進める。

3.内容

環境リスク = 作用の強さ × ばく露量であるといったリスク評価についての説明や、作用を検証するための試験法の実際・問題点についての解説、ばく露量把握のための環境実態調査についての紹介を行い、その上で一般市民の代表としての質問側パネリストからの疑問をもとに議論を展開する。

4.パネリスト構成

専門家・担当者側パネリスト

- ・リスク評価の専門家
- ・毒性試験の専門家
- ・メーカーのリスク評価/管理担当者
- ・行政担当官

一般市民を代表するパネリスト数名

コーディネーター1名

5.時間

1時間40分程度